

開 議

○内谷邦彦議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○内谷邦彦議長 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

なお、質問の時間は、答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、順次、ご指名いたします。

鈴木富美子議員の質問

○内谷邦彦議長 順位1番、議席番号9番、鈴木富美子議員。

(9番鈴木富美子議員登壇)

○9番 鈴木富美子議員 おはようございます。ともに長井の鈴木富美子です。

このたびの質問は、地域の資源を生かした観光商品づくりとフットパスを生かした健康づくり、市内の資源を生かした観光振興、マラソンのまち長井について、3項目の質問と提案をさせていただきます。

1項目めに入ります。私の住んでいる西根地区には、多くの観光資源があります。例えば古代の丘は、家族で散歩やピクニックをしたり、仲間でバーベキューをしたり、体力づくりはもちろん、一人で瞑想するにもよい場所です。日本各地にどこでもあるような風景だと思いますが、西山の稜線をつないでいくと、ピオニーの森から神秘的な三階滝へのルートがあります。三階滝は、里の名水・やまがた百選にもなっているパワースポットです。このルートをやまがたアルカディア観光局の観光商品に加えることはできないかと考え、3点質問をさせていただきます。

初めに、三階滝に行くには、林道桑沢線を通ります。令和4年の水害の後、復旧工事により通行できるようになりました。地元有三階滝保存会があり、参道の整備を保存会の皆さん、そして有志の皆さんで整備しておりますが、路肩が岩盤で危険なところがあります。本来はガードレールを整備すべきだと思いますが、この林道にトラロープを張るとか、注意喚起の看板を設置するなど、できないでしょうか。また、参道に手すりなどの整備もあれば、なお観光地としての価値が上がるのではないかと思います。このことについて、観光文化交流課長にご答弁をお願いいたします。

次に、三階滝の見学には、夏は1日数十組の観光客がおいでになることがあります。中には、県外の方もいらっしゃいます。そして、ほとんどは個人でおいでになります。それだけ魅力のある場所だと思いますので、アルカディア観光局の、例えば温身平リトリートツアーのような、森林セラピー効果をうたう新たな商品開発ができるのではないかと思います。産業参事はどのように思われますか。

3点目は、市長にお聞きいたします。三階滝のような地域の資源を生かし、置賜をつなぐ観光に一層力を入れていくべきと思いますが、市

長の考えをお聞きいたします。

2項目めのフットパスに入らせていただきます。

フットパスは、平成14年から延長1万2,482メートル、幅0.5から5.0メートルと整備されました。フットパスとは、その地域の昔からあるありのままの風景を楽しむ道です。当初からいろんな方が利用され、イベントもあり、市民ひとりスポーツの手助けになってきました。

2009年には、東京都町田市、山梨県甲府市、北海道黒松内町、そして長井市の4つの自治体が発起人となり、日本フットパス協会が設立されました。今では協会に加盟している65団体を含めて、日本全国135団体がフットパスを設置しており、コースは580本以上にもなっております。このように多くのコースができ、2020年はフットパス協会10周年の記念イベントが東京都町田市で行われました。このような歴史のあるフットパスですので、一層の維持と活用のために3点お聞きいたします。

長井市のフットパスコースには、最上川沿いの景観を楽しみながら歩く最上川フットパスコースや、白つつじコース、あやめコース、小桜コースなど、自然だけでなく歴史的な名所や地域の文化に触れることができる、すばらしいコースがたくさんあります。これに加えて、健康スポーツ課での企画や長井花のまちスポーツクラブの企画など、市民向けのフットパスを生かした健康づくりを目的とした企画をもっとすべきと思いますが、健康スポーツ課長のお考えをお聞きいたします。

2点目は、市民向けの企画について質問をいたしました。例えばやまがたアルカディア観光局として企画している最上川舟運ルートがありますが、現在どれぐらい利用されているのでしょうか。長井市の観光と文化を取り入れたフットパスコースをもっとPRすべきと考えますが、いかがでしょうか。産業参事の考えをお聞

きいたします。

3点目は、フットパスの維持管理には、地元の市民のお力を借りている状況だと思います。ただ、地区によっては人口減少と高齢化のため、これまでと同様の作業が難しくなっているともお聞きしております。こうした課題に今後どのように対応しようとお考えか、建設課長にお聞きいたします。

最後の3点目の質問です。マラソンのまち長井について質問をいたします。

長井市においては、トライアスロン大会、長井マラソン大会、山形県高校駅伝大会、隔年に行われる東北高校駅伝大会と、大きな大会が行われます。その都度、市外、県外、海外からも選手はもちろんですが、応援するご家族も大勢いらっしゃいます。もし常設のランニングコースがあれば、合宿などでさらに人を呼び込めるのではないかと考えております。

一方、大会運営は高齢化や人口減少により、ボランティアの方が少なく、運営に支障を来しているとも聞いております。このような実情を踏まえ、特に長井マラソンにおいていただく皆様に、長井に滞在していただくための提案をしたいと思います。

今年も長井マラソン2025が終わりました。市内の皆さんを含めると、1,062人の方が市内を走りました。フルマラソン、ハーフマラソンにおいては、ほとんど県外の方です。現在はトライアスロンにおいてはカレーライスのおもてなし、長井マラソンにおいては芋煮を、心を込めて作っていただいております。ボランティアの皆様に深く感謝申し上げます。

その上で、提案ですが、走り終わった皆さんに宿泊していただく企画をしてはどうでしょうか。例えば市民との交流ができる仕掛けや、お泊まりいただいた皆様に市内観光していただいたり、長井の食を満喫していただくなどの企画はできないでしょうか。市民にも広く募集をか

って、長井ダムの百秋湖を活用したウォーターアクティビティ以外は、西山関係でいいますと、ピオニーの森にかなわないです。あれは民間で独自にあれだけ投資して、なおかつ市のほうの商工振興課、あるいは当時の商工観光課といえますか、ちょっと組織が違っていましたが、経済産業省の補助などを紹介して、そしてそれを整備して、投資して、民間がああいった状況をつくり上げたわけです。

ですから、だからこそ旅行商品が作れるのであって、それを行政が主体となって旅行商品をつくるというのはなかなかできないです、民間と一緒にないと。そんなふうに考えています。観光地域づくりといいますが、長井市を含めて、観光地でない地域にお客様に来ていただくために、お越しいただくために、その体制を総合的に整えるということが重要だと思っております、それは行政だけではできないと考えます。

例えば観光や観光客に対する地元の皆さんの理解を深めることや、誰でも長井市のことを伝えることができる知識を持つこと、あるいはおもてなしを提供できることなど、地域の皆様にもお客様を受け入れていただく機運を高めていただくことも必要となります。訪れる場所や施設のブラッシュアップのほか、そういう施設の店で働く方々の対応、地域を案内するガイドの向上も必要だと思っております。このほか、提供する商品、これは食事とかお土産品ですね、こういったことを含めた全てが観光客を受け入れる地域づくりという考え方でございます。しかもこれらはほとんどが民間の皆様の役割になります。

したがって、やまがたアルカディア観光局では、こうした体制を推進する役割も担っておりますが、行政はその民間の皆様の支援を行うという役割で、民間が主人公で、行政が主人公ではないということでございます。

こうしたことを踏まえて、長井市の資源活用については、置賜地域の資源とも組み合わせまして、長井ダム湖面でのアクティビティや山岳観光、三階滝、ピオニーの森など、それに加えて舟運の文化を感じるまちなか歩きなども、より付加価値が上がるよう進めてまいりたいと思いますので、鈴木富美子議員から今後とも、よろしくご提案いただきたいと思います。

この項の最後に、今年度は今年の豪雨による災害復旧のため、長井ダムの水陸両用バスをはじめとする自然体験のウォーターアクティビティは残念ながら実施できなかったんですが、現在、国土交通省で鋭意復旧工事を進めていただいております、まず、今年度中に少々の大雨洪水が来ても対応できるような、そういった長井ダムのオープン化に対応するような整備を進めていただいております。野川まなび館も、より観光拠点として機能できるよう、今後も整備していく考え方でございます。

地域資源を生かした観光の振興に力を入れてまいりますので、引き続き、鈴木富美子議員からも様々な貴重なご提言、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、2点目のマラソンを通し、関係人口を増やしてはどうかということについてのご提言でございます。議員のほうからは、市外、県外から参加される長井マラソンの選手と市民との交流を企画してはどうかということで、これはごもっともなご提言ではございます。

長井マラソンは、市内外から多くのランナーにご参加いただいております、長井市の魅力を発信する絶好の機会であると考えております。コースといえますか、フルマラソンをやっているのは山形県では唯一でありますし、フルマラソンコースとしては国際公認コースを持っているのは仙台市と私ども長井市だけありますので、そういった意味では、全国のマラソン愛好者にはぜひ長井には一回来たいと言っております。

いるぐらい、私ども市が運営する前に民間の皆様が有志でなさってきた、そういった地道な活動が今日の知名度アップにつながっていると考えています。

今後、参加者のさらなる滞在促進と、観光消費の拡大を図るために、マラソン参加者が大会終了後も市内に滞在し、市民との交流や観光を楽しんでいただけるような取組を進めてまいりたいと思っています。

ただ、マラソンに参加される方は、前日に宿泊なんです。で、走り終わった後は帰られるというパターンが多くて、なかなかマラソン終わった後に滞在して、地元の皆さんとの交流というのが今の標準的なタイプではないので、これをチャレンジしなくてはいけないと思っています。

したがって、それだけ前泊泊まって、終わった日もさらに連泊したいと考えていただけるような、魅力がある企画、そして、何か地元の皆様との触れ合いとか、あるいはどうしてもアスリートの方が専門といいますかね、走るのが好きな方が多いわけですから、そういった方たちがぜひもう1泊して、長井でそういう何かイベントに参加したりとか、市民の皆様と触れ合えるような、そういう企画をどうつくるかということが大切だと思っています。

現在、運営のほうは、市内はもとより市外からのボランティアも多く募っていただいて、給水所、エイドステーションですね、それにボランティアを配置いただき、また、沿道から応援いただくことで盛り上がって交流につながっていきますし、招待選手と市民が交流できる場も設けられるよう、来年度に向けて検討しなければならぬと考えています。

また、観光面では、やまがたアルカディア観光局が実施している水陸両用バス in ながい百秋湖、令和8年度は秋も運行予定としておりまして、こういったことをはじめとする体験型ア

クティビティや、市内のまち歩き観光として実施している最上川舟運で栄えた長井の舟運文化に触れる「街歩き」と旧商家旧丸大扇屋新座敷での「長井舟運御膳」プランなどの観光プラン、宿泊施設等の情報をマラソン大会の公式ページ等に掲載するなど、参加者が後泊といいますかね、終わった後に宿泊を検討しやすい環境を整えてまいりたいと考えております。これにより、長井市の豊かな自然や歴史、文化を体験していただく機会を創出しながら、地域経済の活性化と本市の魅力向上に努めてまいりたいと思えます。ぜひまたいろいろご提言賜りますようお願いいたします。

○内谷邦彦議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 鈴木富美子議員からご質問いただいた問1の観光商品づくり関係の(2)三階滝を小国の温身平リトリートツアーのような森林セラピー効果をうたう新たな商品開発ができないでしょうかということについてお答え申し上げます。

小国町の白い森につきましては、飯豊山荘を拠点といたしました温身平、これは全国初の森林セラピー基地に認定された場所でありまして、大変今では有名になっておりますが、森林の中をゆったり散策することで、癒やし効果とか、それから心身の健康を取り戻す効果というのが認められておりまして、そういったことも行っております。

この自然環境を生かす取組としては、このリトリートツアーにつきましては、小国町観光協会が窓口になりまして、森林セラピーアテンドミーティングという団体が運営しております。やまがたアルカディア観光局では、既にこういうふうな運営体制が整っている温身平の森林セラピスト、それから、セラピーガイドが行うコースについて、「ブナの森「温身平リトリートツアー」森のなかでお昼寝・ティータイム」という商品名で、体験コンセプトとして売

り出しているものでございます。

自然環境を体験できる体験型の観光商品ができないかについては、やまがたアルカディア観光局でも検討しているところでございます。一例を挙げますと、先ほどもありましたとおり、長井ダム湖を利用したアクティビティ、そのほか、今年は三階滝にもバギーツアーをやってみようということで行って見たところでございます。

また、今年試験的に行ったのは、アルカディア陶芸リトリートという名称で、陶芸のろくろを三階滝の前まで持ち込んで、その滝の音や風、鳥の声などを聞きながら、ろくろを回してみるという陶芸体験を行ってみました。ツアー内容につきましては、観光局のポータルサイトの一覧のほうに掲載しておりますけれども、非日常の体験というのが非常に評価が高くて、こういった方面のものをもう少し開発していきたいなと思っております。

ただ、このような体験商品につきましては、先ほど市長からもございましたとおり、その事業を行っていただく方がいらっしゃらないと成り立たないということになります。観光地域づくりには、せっかくいい資源があっても、この長井の地域でその資源に関わる人がいないとお客様を受け入れることができないということでございますので、そこが今の課題と捉えております。

なお、三階滝につきましては、本当に単体でも素晴らしい場所でございますけれども、私が一番考えるのは、民間が行っているピオニーの森、こちらのほうと事業を組み合わせる進めていくのが一番よいのではないかと考えております。このほか、観光局ではサイクリングといいますか、ロードバイクのツアーなどもやっております、そういったツアーの中の立ち寄りポイントということでも利用させていただいております。

どういふものと組み合わせれば一番いいのか、また、お客様によってもその嗜好が違いますので、何種類か選べるものをご用意していきたいと考えております。また、長井市は三階滝に代表されるように水のまちでございますので、まちなかの散策とも併せて、水をテーマとした観光地域づくりを今後とも進めていきたいと思っておりますので、ご指導いただければと思います。

2点目でございます。問2のフットパス関連のご質問で、(2)最上川舟運ルートの利用はどれくらいあるか、また、長井市の観光と文化を取り入れたフットパスコースをもっとPRしてはどうかということでございますが、フットパスコースの中の最上川舟運ルートにつきましては、かつてかわまち協議会のほうで河川敷のフットパスのコースとまちなかをつなぐ推奨ルートとして、みずはの小道のリーフレットの中に掲載していたコースでございます。

現在もこのコースにつきましては、例えば長井市観光協会の観光ポータルサイトにルート紹介をしておりますけれども、やまがたアルカディア観光局で実施している、これ関連の商品がありまして、「最上川舟運で栄えた長井の舟運文化に触れる「街歩き」と旧商家旧丸大扇屋新座敷「長井舟運御膳」貸切り昼食プラン」、ちょっと長いタイトルなんですけど、というものを現在実施しております。これについては、このみずはの小道に掲載している推奨コースのとおり歩いているというわけではございませんけども、ガイドつきのまちなか散策の一つの商品として観光局では販売しております。昼食に舟運御膳というちょっと特別な昼食を用意しております、これはタスパークホテルで調理しておりますが、この昼食についても大変高評価をいただいているところでございます。

こちらの商品については、このコースが今年の冬から販売しているもので、まだ1年たって

いないんですけども、今のところ最高回数が6回、合計で31名の方に楽しんでいただいたところでございます。現在、観光ポータルサイトのツアー一覧に掲載している商品となりまして、まち歩きについてはこのような販売商品もありますけども、ボランティアガイドの皆さんの企画事業として、例えば夏場に行っている梅花藻ツアー、それから、花の時期はつつじ公園、あやめ公園からまちなかの散策という、そういった事業も行ってございまして、フットパスに限らず、そういったルートをその都度、季節ごとにつくって行っているところでございます。

観光と文化をもっと取り入れて、フットパスもPRすべきではないかというご意見いただきました。長井市では現在、都市再生整備計画事業の中で、ウォークブルシティの考えを取り入れ、まちの再生を目指していこうと進めております。散策して楽しめるまちを目指し、これは建設課だけではなくて観光文化交流課をはじめ、ほかの部署、または市民の皆さんと一緒に重要な文化的景観を保全するだけではなくて、楽しめる取組を進めるものでございます。

イメージとしましては、以前まちめぐり美術館という事業を行っていただきましたけども、そういった姿をいつでもまちの中で、その歴史や生活文化、なりわいなどに触れ、地域の方々と交流できるよう、そういうまちの姿を目標としていきたいと思っております。フットパスコースの楽しみに加えまして、長井のまちをいつでも自由に感じられる散策ができるような、そんなまちづくりを進め、それに準じてコースや商品づくりを進めてまいりたいと考えております。こういったところをこれからも大いに宣伝してまいりたいと思っておりますので、今後ともご意見いただきますように、お願いしたいと思います。

○内谷邦彦議長 渋谷和志観光文化交流課長。

○渋谷和志観光文化交流課長 それでは、私から

は問1、(1)についてお答え申し上げます。

山形県には数多くの秀麗な山々、全国一の面積を誇る緑豊かなブナの天然林、母なる川、最上川に代表される豊かな水、澄んだ空気など、美しい自然に恵まれ、山々の麓からは多種多様な湧水が数多く流出しております。県では、この多くの湧水の中から地域の人々に育まれてきた優れた湧水を里の名水・やまがた百選として平成27年度から毎年選定をしており、令和6年度までに計82か所の湧水を選定しております。本市の三階滝は平成27年度当初に選定された湧水で、選定されてからは多くの観光客の皆様が訪れるようになり、本市の代表的な観光名所の一つとなっております。また、滝の麓に三階滝神社が建立されていることもありまして、滝と相まってパワースポットとしても知られております。

ピオニーの森から三階滝に至る途中までの道路は林道桑沢線で、農林課の管理となっております。そこから先の道路と三階滝周辺は寺泉区の所有地となりますので、三階滝保存会を含め、関係される皆様で管理されていると聞いております。先日の山形新聞社様の記事で、自民党青年部の皆様、三階滝保存会の皆様、やまがたアルカディア観光局の職員の皆さんが三階滝の散策路の修繕をされている様子を拝見いたしました。

議員からご指名いただきましたので、私も後日、議員と一緒に現場を訪れて、三階滝までの道路や最寄りの駐車スペース、滝の散策路などの状況を確認してまいりました。議員からはこうした状況を踏まえ、林道のガードレールや散策路の手すりの整備、トラロープや注意喚起の看板の設置をしてはどうかというご提案をいただきました。

ご承知のとおり、三階滝や三階滝神社は素晴らしい自然景観の中にありますので、三階滝周辺及び林道の散策路を整備したことによって、

せっかくの自然景観を壊すようなことがあってはならないと思います。また、整備したとしても自然災害でまた被害に遭うかもしれませんし、後年の維持、修繕費用も必要となることを考慮しますと、来場者の安全確保と危険回避の措置として、必要最低限の整備にとどめるべきと考えます。今後の整備については、寺泉区、三階滝保存会、市とそれぞれの立場で検討する必要があると存じます。

なお、保存会の皆様が整備される場合は、県のみどり豊かな森林環境づくり推進事業や、みどりの環境づくり推進事業、市の心のまちづくり基金事業などが該当する見込みがございますので、ご検討いただければと存じます。

○内谷邦彦議長 菊地千賀健康スポーツ課長。

○菊地千賀健康スポーツ課長 私からは、問2の

(1) 市民向けのフットパスを生かした健康づくりを目的とした企画を進めるべきではないかという質問にお答えさせていただきます。

市民の皆様に運動習慣を身につけていただき、生活習慣病や要介護状態を予防できるように、長井花のまちスポーツクラブに委託し、長井市健康づくり運動事業を推進しております。その事業内容の一つに、健康運動指導士の資格を有する講師と共に、年間を通し、午前中にウォーキング教室を開催しており、ウォーキングをするのにとっても適した場所としてフットパスコースを活用しております。令和6年度は20回中、春の桜巡りや、新緑を楽しむ豊田コースを4回開催し、延べ人数は47人となっております。

また、6月、7月、9月に月2回ずつ、最上川フットパスコースを活用し、健康増進を図ってまいりました。今年6月には、日本ノルディックフィットネス協会から講師をお呼びし、最上川フットパスコースを活用し、ノルディックウォーキング教室を開催しました。29名の方にご参加いただいております。

また、今年度、国の交付金を活用し、まちな

かで気軽に健康づくりができる機会を創出するため、タスパークホテル長井において、フットパスコースを活用したウォーキングイベントの開催を計画しております。現在、健康づくりのための運動の導入事業の一つとして、ノルディックウォーキングの普及に取り組んでおりますので、来年度は積極的に活用していきたいと考えております。

今後は数多くの市民に参加してみたいと思えるような教室を目指していくために、長井花のまちスポーツクラブと関係する課と連携を図りながら、事業を進めてまいりたいと考えております。

○内谷邦彦議長 若月由紀建設課長。

○若月由紀建設課長 私からは、問2の(3)フットパスの維持管理に関して、地元住民のお力を借りていることについて、今後どのように対応する考えかということにお答えいたします。

まず、本市のフットパスでございますが、国土交通省からは、白川沿いのモデルコースから始まり、フットパスコースとして最上川沿いの小道など、ハード整備をしていただきました。豊田地区の関係者の皆様には、整備構想の段階から整備後の維持管理まで、何度もご協議いただき、深く関わっていただいた経過もあり、ご協力に感謝しているところです。

長井市もかわまちづくり計画を策定し、あずまや案内板、フットパスのガイドマップなどを整備し、かわまちづくり推進協議会や、黒獅子の里案内人をはじめとする地域の皆様と連携しながら、川とまちの回遊性向上や、交流人口の拡大に取り組んでまいりました。これらのソフト、ハード事業については、川まちづくり支援制度により、国の支援を受けて実施してきましたが、川と町が融合した空間を自治体や地元住民らが一緒につくり上げ、協働体制が構築されていると認められて、採択を受けたものでございます。

実際の維持管理でございますが、市は国と合同でフットパスの安全利用点検を毎年2回実施するなどし、不具合が見つければ、その都度修繕や草刈り、樹木の枝切りなどを行っているところでございます。地元住民の皆様には、平成17年度から国土交通省山形河川国道事務所、市、地元団体で維持管理についての覚書を締結し、その管理分担の下、現在は中央地区は最上川水辺環境促進協議会、豊田地区はコミュニティ振興会に、一部区間の草刈り等を実施していただいております。フットパスの環境維持が図られている状況です。

このように、維持管理からボランティアガイドといった活用に至るまで、地域の皆様に継続して関わっていただいて、地域づくりを実践してきたことなどが評価されて、平成30年、かわまち大賞が創設された初年度に国土交通大臣から表彰を受けることができました。

一方で、議員ご指摘のとおり、人口減少や高齢化等により、これまでと同様の作業が困難になるのではないかと心配される声もあり、これまでも現場のご意見を伺いながら、一部区間を管理協定から除外するなど、直近では昨年度も見直ししたところでございますが、作業範囲の見直しを二度実施してきまして、地区にご了解をいただいて、現在に至っているところでございます。

今後も地域の皆様と意見交換を行いまして、負担に偏りが生じないよう調整を図りながら、適切な維持管理に努めてまいります。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 いろいろご答弁いただきました。

最初の三階滝について、市長にもう一度お聞きいたします。

いろいろ問題は、観光文化交流課長からもありましたけども、市長からですが、民間の力が大事だということで、私たちも十分それは分

かっていると思っております。例えば商品をつくっていただいたら、地元で引き受けるような形の仕組みをつくっていくということも大事なかなとちょっと思っておりますので、その辺につきましては、市長の考えはどうでしょうか。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員おっしゃるとおりで、観光局のほうで旅行商品づくりをして、市の観光文化交流課というのは、どちらかといえば民間の皆様の様々な事業に対して補助事業とか、予算的な部分での支援とか、制度の紹介とか、そういったことの位置づけでいるんですね。

その場合、例えば三階滝でしたら、あそこの所有地域というのは寺泉区なんです。それで、その寺泉区の同意を得て、有志で三階滝を有志の会みたいなのでいろいろ運営なさっているわけですけども、そちらについて、なかなか常時、店構えたりとか、そういったことはできないとすれば、それをどこかで委託で受けてくれるところがないとか、あとは寺泉区のほうから少し支援いただけないかと、その代わり、そこで出た収益、もしたくさん頂いたら寺泉に返すということはできるわけです。

寺泉区のほうも、ついこの間も市で行った植林、その管理等々をしていたところを、地区のほうに払下げしたいということで、途中で契約解除とかしたんですね。それらをいろいろお伺いすると、区のほうにそれなりの収入があるから、市の取組をまず一旦解約してほしいということだったので、区のほうも運営的には大変なのかもしれないんですが、区の財産で、寺泉の人たちの本当に財産なわけです。ですから、そのところを市でどうのこうのって、なかなかできない。

あそこはすぐそばまでの林道については、なかなか市で単独で整備することできなかったんですが、令和4年の豪雨災害のときに、ちよっ

と私どもも、実はそういうときは整備しようということで整備できたんですが、そこから三階滝までは、なかなか寺泉区のものを行政がやるというのは、例えばほかの地区との平等性からいってできないからということから、今回のそのボランティア活動があったと思うんですけども、それと同じように、寺泉区でもなかなかできないとしたら、それをやってくれる団体とかあれば、その整備をしたいということであれば、市のほうで何か補助等々は見つけられるかもしれないし、最低限でも市で少し支援するということはできると思うんですね。

ですから、そういったことも含めて、担い手といいますかね、そういったところがあれば、市としてもお手伝い、あるいは観光局としてもより広くPRして旅行商品なんかの一つにつくれることもあるなど考えていますので、その辺のところを何かいろいろご提案いただければ、あるいはどなたかに声をかけていただいて、より進むように、お力添えいただければありがたいなと思っていますところでは。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 ありがとうございます。課長も先ほど県のみどりの環境づくり推進事業とか、いろいろあるとおっしゃられたので、こちらでもしっかりと勉強して、地元に戻って皆さんで話し合いをして、せっかくの資源なので生かしたいと思っています。

次に、マラソンについてですが、マラソンを先ほど市長がおっしゃったように、前泊して2泊というのはなかなかいらっしゃる方もきついのではないかと思います。実は先日、マラソンの後、私たちもある方が走られて、長井で飲みたいと言われて、マラソンが終わった後、フルマラソンした上に4時間も5時間も飲んでいらっしゃって、ええっと思ったんですが、そういう方もいらっしゃるので、紹介してほしいと言われて、そういう例えば市民でも私みたいな

物好きの方がもしいて、こういう方と交流したいなという、広く募集したら、もしかして交流もできるのかなと思っておりました。

せっかくおいでいただいて、走ったらさようならというのはちょっとせっかくの交流人口、今は大事な交流人口ですので、何とか市民にも募集していただいて、いろいろ大変だと思いますが、皆さんで横断的に手伝いながらやっていくという方法などは、市長にとってはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

また、先ほど例えばマラソンコースがもしあれば、練習するようなコースがあれば、合宿なども、高校駅伝なんかあるので、そういうのも利用できるのではないかと考えております。ピオニーの森では、高校生の駅伝で合宿に毎年来ていますので、そういう利用方法もあると思いますので、その点についてはマラソンコースの設置ということは、ちょっと私は最上川沿いだとタスも使えるのかなと思っておりましたが、どのようにお考えでしょうか。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変様々なご提案いただいて、ありがとうございます。

マラソン、特にフルマラソンについては非常に特殊で、来年はどこどこで走る、来年2回しようかなとか、人それぞれ何かいろいろ計画を立てている方が多いと伺っています。

ただ、議員おっしゃるように、せっかくお越しいただくお客様ですし、多分気に入ってくだされば、2回、3回とリピーターにもなってもらえるものと思っていますので、ぜひいろいろな工夫を考えたいと思っています。

一つ課題なのは、今、長井マラソンについてはちょっと過渡期といいますかね、長井では特に長井マラソンでフルマラソンで、かなり厳重な警備と多くのボランティアの人に協力していただく必要があるんですけども、それ以外に高校の県の駅伝があると。毎年あるわけですね、

男女。それから、東北のマラソン大会が2年に1回、男女あるということに加えて、それから、トライアスロンの大会も毎年していただいています。さらには、県の縦断駅伝は別として、白つつじマラソンはそれだからこそやめて、長井マラソンに一つにしているんですが、この在り方をもう少しいろいろ検討する必要があるなど考えております。

そういった中で、長井マラソンについて、どういうふうにして、せっかくいらしていただいた方、ただ単なるマラソンに参加するだけではなくて、それ以外の長井を楽しんでいただけるような、あるいは長井の市民と触れ合えるような、そういったイベントについては、どちらかという先ほど申し上げた高校のいろんな駅伝なんかは、前泊して合宿して、練習もしていただいているんです。

それなりに地域には経済効果あると思うんですが、長井マラソンにいらした方にもう1泊とか、そういったところについてはいろいろな工夫が必要だと思っていますので、議員おっしゃるとおりでございますので、ぜひ長井マラソンの実行委員会などでもいろいろ意見をいただきながら、また、市民の参加がどうしても少ないわけで、千何人しかいないわけです。白つつじマラソンで、最大期には千数百名いたわけですから、それが一つにせざるを得なかったんですね。

その在り方も含めて、ぜひ来年からはそういったことができるように検討してまいりたいと思いますので、こちらも引き続き、何かご提案いただければと思います。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 フットパスにつきましては、健康スポーツ課のほうでいろいろなさっしているということで、努力していらっしゃるんだなと思ってお聞きしたところでした。

せっかくつくったフットパスコース、そして

維持をしていらっしゃる地元の方だったり、建設課だったり、いろいろありますので、一緒に、せっかくのつくった資源を生かさない手はないかなと思っているところでございます。いろいろ人が少なくなったりして大変なこともあります。フットパスもすごくいいコースなので、最上川沿いだけでもなく、ボランティアガイドの人、まちなかずっと回っていらっしゃることもありまして、それも維持していけたらなと思います。

参事にお聞きいたします。まち巡りのフットパスコースですが、一番人気はどの辺でしょうか。その辺、調べていらっしゃるかどうか、お聞きいたします。

○内谷邦彦議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 まち歩きで一番人気なのはまちの裏側を通るコースで、川沿いの、梅花藻見学ツアーなどが一番人気があると感じております。

そのほか、ちょっと受け入れていただけるお店も必要なんですけども、あら町の風景とか、もちろん十日町方面も、丸大扇屋には必ず立ち寄っていただくというまち歩きしておりますが、季節としては、夏の梅花藻か秋ですね、春より秋の屋敷の中に紅葉が出る季節なんか人気があると感じているところでございます。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 いろいろ観光につきましてお聞きしましたが、私たち市民も一緒になって、行政と一緒にやっていくのが大事だなと痛感させられた思いです。ぜひみんなで長井市に人がおいでになるよう、頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上で質問を終わります。

竹田陽一議員の質問